

# レファレンス だより

2011年3月号  
No. 100

福岡市総合図書館  
図書利用課 相談係  
☎092-852-0632



レファレンス・サービスとは、情報を求めて来られた利用者に対して、図書館の資料等を活用して、必要としている情報を探すお手伝いをするサービスのことで、法律相談や物品鑑定などといったお答えできない質問もあります。また、質問によっては回答に日数がかかるもの、資料や情報が提供できない場合もありますのでご了承ください。

## ■レファレンス受付件数（2010年12月分）

参考	人文	社会	自然	郷土
67	1,577	425	352	391
国際	国連	こども	ホピュラー	合計
347	136	753	833	4,881

（開館日 23日 一日平均 212件）



## 今月のレファレンス徹底解説！

Q：第二次世界大戦中と、戦後の塩の配給量について知りたい。

### ■配給関連の本をみる

『食糧配給公団史料 総括之部』（食糧配給公団 1951年）閉架書庫 R611/シ

昭和22年1月から25年9月まで月別の配給実績表が載っている。米や麦、小麦粉などの配給量が分かるが、塩は含まれていない。

### ■配給に関する本では確認できないので、塩業関連の本をみる

『日本塩業史』（日本専売公社 1958年）閉架書庫 669.02/-

塩割当配給制度について概説や実施状況の記載がある。この制度は昭和17年1月実施から昭和25年1月廃止まで8カ年継続されている。家庭用基本割当は全国一律に1人1カ月当り200グラムを通帳（家庭用塩購入券）により配給。漬物時期における季節的の需要増加時は、市町村単位で塩の加算割当が行われ、部落や隣保班または家庭を単位として分配した。業務用塩も割当制で、申請を受け、前月中に事業者ごとの割当量を通知したとあり。具体的な配給量については記載がない。

『戦後日本塩業史』（日本専売公社 1958年）閉架書庫 669.02/t

終戦後、塩の在庫が極度に減少。業務用塩の配給は極度に切り詰められたが、家庭用配給の基本量は減額されなかった。この「1人1カ月当り200グラム」は、生命維持に直結する生理的な要求量から見て最低限であったため、基本量が修正されることはなかった、とのこと。また、味噌の配給の減少を補う意味から随時1人当り100グラムを特配することさえもあった。

『近代日本塩業史』（小沢利雄／著 大明堂 2000年）2階E12 669.02/オ

日本の塩需給の推移がわかるグラフあり。終戦直後は輸入塩、国産塩ともに極端に需給量が減っている。

### ■新聞

朝日新聞記事データベース「戦前紙面データベース」「聞蔵Ⅱ」

昭和16年12月30日夕刊に「元日から塩も通帳制、最低限度配給量として200グラムの割合で塩が買えることになる」とある。専売局が発行した「家庭用塩通帳」の写真も掲載がある。

昭和20年12月11日朝刊に「塩下半期配給量、僅か十三萬噸（トン）」との見出しで記事あり。「食料塩の配給は昭和18年110万トン、19年107万トン計算であったが、実際は93万トンであった。20年上半期配給したのは31万4千トン。政府は26万5千トンを輸入予定」とある。

昭和22年7月29日朝刊に「食料緊急対策として基本配給量のほかに7月から10月まで100グラム増配」とあるが、昭和22年10月4日朝刊には「現在の塩の需給見込はきわめて悪く終戦後最悪の塩飢饉を現出するだろう」と塩の10、11月の緊急増配を取りやめている。

昭和24年10月19日朝刊に「塩の生産および輸入の好調から年内の切符制を廃止。」とのこと。この頃には十分なストックがあり、翌年の塩配給制度の終了につながる事が分かる。



## その他にもこんな質問がありました

Q：ゴッホを日本に最初に紹介したのは誰か？当時、他にも紹介した人がいれば知りたい。

### ■ゴッホ関連

#### 『ゴッホ展 オランダクレラー=ミュラー美術館所蔵』

(ゴッホ/[画] 横浜美術館学芸部/[ほか]編集 日本テレビ放送網 1995年) 2階郷土 K15 723.35/ゴ/CA  
木下長宏・新畑泰秀編集のゴッホ邦文文献(1910年~1995年まで)に、「スバル 1910年3月」に森鷗外が【無名氏】の署名で記述した“むく鳥通信(第14回 1910年3月5日發)”が最初に記されている。「白樺 1910年11月」に齋藤與里「ロダンに就いて起こる感想」が、「白樺 1911年3月」に武者小路実篤「六号雑感」が掲載されたとある。

『ヴァン・ゴッホ全画集 3』(ヴァン・ゴッホ/[著] ヤン・フルスカ/編著 講談社 1978年) 2階 B17 723.35/ゴ  
書簡:「白樺第2、3号 1911年」児島喜久雄訳「ヴィンツェント・ヴァン・ゴッホの手紙」、単行本:黒田重太郎『ヴァン・ゴッホ』日本美術学院 1921年、画集:『ゴッホ画集』日本洋画協会(現代の洋画 第20号記念付録) 1913年、論文・雑誌:ゴッホ特集号「白樺 1912年11月」と記載あり。

#### 『ゴッホと日本展』(テレビ朝日 1992年) 2階郷土 K15 723.35/ゴ/CA

現代日本人作家によるゴッホ論や木下長宏編集の日本におけるファン・ゴッホ主要文献を掲載。主要文献には「1910年日本に紹介されて以来」とあるが、その文献は紹介されていない。書簡集:「白樺 1911年2月」に児島喜久雄訳「ヴィンツェント・ヴァン・ゴッホの手紙」、画集:1913年に雑誌「現代の洋画」の20号記念付録として発行されたもの、回想録:「層雲 1912年5月」に妹エリザベスの回想の要約、雑誌の特集:「白樺 1912年11月」と記載している。日本におけるファン・ゴッホ研究の初期の労作は、赤松義麿『ファン・ゴッホ論』(岩波書店 1925)だろうとある。『ファン・ゴッホ論』は国立国会図書館>電子図書館>近代デジタルライブラリー【<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>】でみることができる。

『ゴッホ展 クレラー=ミュラー美術館所蔵』(ゴッホ/[画] 木島俊介/監修 日本テレビ 1999年) 閉架書庫 723.35/ゴ  
新畑泰秀編集「1946年~1999年邦文参考文献」を収録。

Q：江戸三百諸侯というが、江戸時代に藩はいくつあったのか。また、どんな藩があったか。

### ■歴史事典

『国史大辞典 11 にた-ひ』(国史大辞典編集委員会/編 吉川弘文館 1990年) 2階 C10 R210.03/コ  
藩の項目に、幕府開設時には185藩あり、のち元禄4年(1691年)には243藩、慶応元年(1865年)に266藩を数えたが、通称の「三百諸侯」には達せず、明治4年にも283藩だったとある。

#### 『藩史大事典 第1~8巻』(木村礎/[ほか]編 雄山閣出版 1988~1890年) 2階 C10 R210.5/ハ

#### 『藩史総覧』(児玉幸多/監修 北島正元/監修 新人物往来社 1977年) 2階 C10 210.5/ハ

#### 『江戸諸藩要覧』(井上隆明/編 東洋書院 1982年) 2階 C10 R210.5/イ

上記の3冊には、慶長8年(1603年)の江戸開府から明治4年(1871年)の廃藩置県までの間に存在した藩(大名)が掲載されている。藩の名称、歴代藩主、藩の概観などを調べることができる。

Q：昭和33年~35年頃、箱崎宮の近くにあった水族館について知りたい。

### ■郷土関連

#### 『福岡市史 第8巻 昭和編 後編4』(福岡市役所/編集 1978年) 2階郷土 K2 K226/260/7

福岡市年表に「昭和32年(1957)の4月14日福岡水族館が箱崎に開館(28水槽)する」とあり。

#### 『懐かしの遊園地風景 かしいかえん だざいふえん いたうづゆうえん福岡水族館ほか』

(西日本鉄道株式会社/監修 アソシエ地図の資料館 2009年) 2階郷土 K9 K689/000/ナ  
福岡水族館の館内風景や、ペンギン池、ミニ汽車やプールなどの写真が掲載。「箱崎宮の参道脇に開館した『福岡水族館』。初めてみる珍しい魚たちに子どもたちは大興奮。中でもペンギンコーナーが一番人気だった」とのこと。プールは、夏季以外は釣堀になっていた。開館間もない園内には未整備の場所も多く、写真にも写っている。

『西日本鉄道七十年史』(西日本鉄道 1978年) 2階郷土 K9 K680/263/ニ  
年表に「昭和32年4月14日福岡水族館開館(昭和43年8月廃止)」と記載あり。

■新聞

西日本新聞 昭和32年4月11日朝刊5ページ(マイクロフィルム)

「箱崎の福岡水族館14日から開館」の見出しで記事あり。鉄筋2階建、延4000坪の水族館には28の水槽のほか3つのプールがあり、海水・淡水魚約100種、熱帯魚60種が集められた。開館時間は午前9時から午後5時までで、料金は大人50円、学生40円、子供30円であった。

Q: 大阪商人の仕事着「厚子・厚司」(あつし)について。

■辞典

『日本国語大辞典 第1巻』(小学館国語辞典編集部/編集 小学館 2000年) 2階 C1 R813.1/ニ  
あつし(厚子・厚司)の項の④に「大坂地方で産出される、平織りまたは綾織りの厚くて丈夫な木綿の織物。紺の無地か大名縞で、多くは労働者の仕事着や、前掛け、半纏(はんてん)などに用いられる。」とある。

『きもの用語大辞典』(装道きもの学院/編 主婦と生活社 1979年) 2階 D7 R383.1/キ  
あつし(厚子・厚司)の項に「商家の丁稚などが着る紺無地や地味な細かな縞柄などの厚手木綿で仕立てた、筒袖、おくみなしの単仕立ての仕事着のことという。」とある。

■衣服関連

『仕事着 西日本編』(神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第12集)  
(神奈川大学日本常民文化研究所/編 平凡社 1987年) 閉架書庫 383/シ  
筒袖・膝丈・単衣または袴の商家の仕事着と解説あり。大阪市西区の燃料店で使用されていたアツシの写真と図が掲載されている。

■綿織物関連

『木綿』(浅井一甲/編 工房一甲 1984年) 2階 E15 586.27/モ  
解説はなく、アツシの写真のみ掲載。「雲斎の厚司すっしり紺褪せず」という里見玉兎の歌も紹介あり。  
※ 雲斎織(うんさいおり): うね刺しを、織り出した地のあらい綿布。じょうぶなので、多くは足袋底に用いた。雲斎の織物や足袋を、単に雲斎ともいう。(『日本国語大辞典第2巻』より)

Q: 国連が5年に1度発行している「世界の女性」はあるか。

■所蔵資料

(英語)

『The World's Women 2010: trends and statistics(世界の女性 2010 傾向と統計)』  
(United Nations 2010年) 2階 国連 A2 F017.00/10-11/K 19  
1991年に1970-1990年版として初めて国連事務局国際経済社会総局(当時)より出版され、その後5年に1度発行されている。8分野(人口と家族、健康、教育、仕事、意思決定、女性に対する暴力、環境、貧困)における男女の違いに焦点をあてている。分析は主に国際統計や各国の情報を基にしている。就学率、健康、経済活動等いくつかの分野において男女格差解消の進展がみられるが、意思決定や暴力被害については依然として格差が残っており対策が必要であるとしている。本文を補足、説明する囲み記事や図表を用いわかりやすく、巻末に各種の統計がある。  
英語版、日本語版とも初版(1970-1990年版)から全て所蔵。

『The World's Women 2005 Progress in statistics』(United Nations 2006年) 2階 国連 A1 F017.00/05-07/K 17  
(日本語)

『世界の女性 2005: 統計における進展』(国際連合/著 日本統計協会/訳 日本統計協会 2006年) 2階 C16 R367.2/セ  
※ 日本語版の2010年版の出版は未定

■インターネット

「United Nations Statistics Division(国連統計局)」【<http://unstats.un.org/unsd/default.htm>】  
>Demographic & Social Statistics>The World's Women reports>初版から最新版まで5冊全て本文閲覧可能。(英語)

※ 棚番号は総合図書館のもので、本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



## 今月の一冊！

『国書読み方辞典』（植月博/編 おうふう 1996年）2階 C4 R025.1/4

日本の古典を探していて、その書名の読み方が複数ある時、困ったことはありませんか？そういう時は、この本を使ってみてください。書名の最初の文字の画数から、読み方を調べることができます。『国書総目録』（岩波書店）、『日本古典文学大辞典』（岩波書店）、『演劇百科大事典』（平凡社）、『日本国語大辞典』（小学館）が出典となっており、難しい書名や日本古典関係の人名が頭文字の総字画数順に並べられています。音訓索引も付いているので、最初の文字が読めた場合は、そちらから調べることもできます。また各項目の末尾には出典の掲載箇所を示す数字があり、その辞典を引けるようになっています。

**使ってみました！**⇒“楫取魚彦家集”を調べる！

‘楫’の総画数は13画。総画索引を引くと「カトリナヒコカシュウ」または「カドリナヒコカシュウ」と読み、読み方の後にある数字「2・191-3」から『国書総目録』第2巻の191ページ3段目に掲載されていることが分かる。



## 図書館活用術 ～行政資料コーナー～

福岡市政の全般的な仕組み、具体的な事業内容について調べたい時など行政資料が役に立ちます。行政資料とは、国や地方公共団体および外郭団体が発行した出版物のことです。当館の2階にある「文書資料室」では、福岡市が発行した行政資料を中心に収集・整理・保存しており、資料室内で閲覧できます。閲覧資料には、次のようなものがあります。

- 福岡市の議会に関する資料…『福岡市議会会議録』、『福岡市議会議案』、『福岡市議会報告』
- 福岡市の条例等に関する資料…『福岡市例規』(条例、規則)、『福岡市公報』

この他にも、『福岡市政要覧』、『福岡市統計書』、『ふくおか市政だより』とその縮刷版、財政・保健福祉・環境・農林水産や港湾等の各局が発行した統計書や事業報告書、パンフレット、各機関が発行した情報誌等があります。資料を検索した際に、配架場所が「行政資料」と表示されたり、請求記号の最初に「G」がついている資料は、文書資料室にありますので、カウンターにてお尋ね下さい。

最近では、福岡市のホームページ上でも行政資料の閲覧ができますが、数年前の資料と比較したり、各局の資料を多角的に調べたりされる時には、ぜひ文書資料室をご活用ください。



## レファレンスだよりが100号を迎えました！

2002年12月から発行を始めたレファレンスだよりが今号で100号を迎えました。これからも皆さんの調べものに役立つ情報をどんどん発信していきますのでお楽しみに。ご意見、ご感想もお待ちしております。

## 3月総合図書館の特別整理にともなう休館のお知らせ

図書の特典整理と機器点検のため、3月7日（月）～3月16日（水）の間、休館いたします。ご協力をお願いいたします。